

医師としての責任は社会的にとっても重いものだと再認識した	
講義だけの研修であれば、あまり深く考えることもなかったと思うが、グループワークにすることで、それぞれ意見交換が出来、真剣に取り組めて、とても充実した研修になったと思う	
患者さんの立場になり傾聴して感情を共有する大切さを学んだ	
一般の医師、歯科医師にも受講して頂きたい位、良い内容だった	
少なくとも医療事故、ミスで処分を受けた人間については、当事者のドクターだけでなく、事故を起こしたとされる職場の関係者についても、診療をストップさせてでも、1日ないし2日、研修を各病院へスタッフを派遣して行うべきである。今や誰でも事故は起こりうることであり、医師会主体で研修を年1回ないし2回、絶対参加で行うべき	
自分は歯科医だが、医師の受講者の意見が聴けて良かった	医師・歯科医師の合同研修について
今回、医師・歯科医師が一同に介して研修を行う機会は、一生に一度あるかないかであり、大変、自分にとってこの2日間は、これからの医療に反映できる良い経験となった	
歯科医として、医科的内容は理解しにくかった	
「行政処分」としての指導である以上、個人的に「楽しむ」わけにはいかず、心理的に緊張感があった。もう二度とこんな緊張感は、味わいたくないものである	精神的負担
医師として誠心誠意やってきて、今回、刑事罰を受ける要素に、少なからず患者を気にして、というのが、自分の中にあり、正直こういった研修を強制的にやらされるのは心外に思う。行政処分の重さから、この研修、人としての過ちを犯したが、医師の姿勢としても誤っていた、ということなので、今後、姿勢を改めようと思った	
司法処分と行政処分との間の期間が空きすぎてしまった。司法処分の直後に研修を行うことはできないのか	
精神的サポートについてもあったら良かったのでは	

以上では、「全体の感想」という項目で得られた受講者回答のグループ分けをした。全体として、①評価（ネガティブ、ポジティブ）、②精神的負担、③医師・歯科医師の合同研修、となった。ネガティブ評価では、行政処分の原因が異なるが同じ研修を受けさせることに疑問を感じる場合が多い。ポジティブ評価では、本研修が大変有意義であり一般の医師にも受講させるべきという記述が多い。また、「(受講者の) 精神的負担」への回答も留意すべきであろう。

(2) 講師による回答

「アンケート質問」：団体研修全体の感想を自由に記入してください

記述	グループ
実施回数を重ねたため、運営も円滑に進んでいたと思う	研修の進行について
GWの時は（講師は）いすにすわるべき。囲むように立つのは威圧感がある	
2日目になると、参加者のコミュニケーションも良好となり、GWも発言が多くなった	
前回と比べて参加者が多いにもかかわらず、運営が順調にいったと思う。人数的には、この程度限界と思われる	
タイムスケジュールの運営側手持ちとして、時間・セッション・担当者・配布資料・配布担当者を明示したものを作成して欲しい	
受講生以外の方達の人数や態度によって威圧感があるので、検討が必要	
グループのメンバー構成によって、ワークが上手く進行しないのは、個々人のキャラクターが判明しないためやむをえないだろうか	
導入が重要である。T先生のようなタレントを複数用意できなければ、分散開催は難しいと感じた	
医師はコミュニケーションが下手な集団と改めて感じた。ワークショップに真剣に、時に楽しそうに話っている受講者の姿に安心した。	
開業医と病院勤務医向けに二分してはどうか	
受講者がどのような事由で処分されたのか分からなかったが、かえって先入観を持たずに参加できたと思う	
高齢の参加者については、発言もなく、ただ出席いただくという感じになってしまったことについて、疑問が残る	
各グループに十分な数のマジックペンを用意、モニターが見やすい位置に座席を配置する工夫が必要	
字幕のビデオは寝る人もいるので、吹き替えも必要	
短時間のGWであったが、今回はガイドがあったので、前回より進行しやすかった	
担当者が変更すると資料作成等、最初から作り直すことが多いと感じる。T先生が参加できない場合、現状のままでは、他に代行できる者はいるのか	
自分自身の紹介もしなかったため、グループに入る時に伝えればよかった。処分を受けた方に対する配慮が難しい	

今後、担当者が変更しても持続可能な方法を確立していくことが、大切だと感じる	
新任者への引き継ぎをスムーズにして欲しい。ファシリテーター同士での引き継ぎでは不十分	
グループワークにもう少し時間があると良かったと思います	研修の時間について
研修が短時間のため、いずれも時間不足気味だ	
時間配分が難しい。もう少し全体時間を増やせないか	
グループ討論の時間をもう少し長くする。講義を短くして。	
GWの時間配分が必要。グループ討議の時間をもう少し確保すべき。目的が知識と技能を習得というよりは、GWによる気づきの場とすれば、グループ討議の時間をもう少し確保すべき。全体の日程にも影響するが、1.5日から2日間の考慮が必要ではないか	
ファシリテーターとしてもう少し全員が発言できるように関与すべき	ファシリテーターの役割
ファシリテーターとして参加したが、受講者が男性が多かったため、看護師がファシリテーターとして入った方が、円滑に進むと感じた	
オブザーバーの役割が多く、役割が良くわからない	
ファシリテーターは最初から、担当グループ内に入っていた方が、グループの和みになって活発になれると思う	
(受講生を) 促せばしっかりと意見を述べるのが印象的だった	
発言が少ない方へのファシリテーターを工夫すべき	
講習会の実施主体については、できれば厚生労働省以外として、明瞭にすべきである	主催者
教育企画なので、将来には行政処分とは異なるスキーム(実施主体等)で実施すれば良いと思う	
厚労省直営ではなく、委託の形をとってはどうか	
(厚労省の) 職員の人数が多すぎ	

講師より得られた回答は以下5つに分類できた。すなわち、①研修の進行について、②研修の体制について、③研修の時間について、④ファシリテーターの役割、⑤主催者。講師による回答では、特殊の役割を果たしているゆえに、進行ないし制度の改善に対する提言が多く含まれている。

(3) 小括

受講者は研修に参加した感想が大部分に占めているに対し、講師による記述は主に研修の形式や内容の構成関わっている。この違いは講師が受講者により刺激を受け、講義の方案を練り直す努力していると解釈するのが妥当であろう。また、特に受講者によるネガティブ評価については、「講師の早口」「内容が多い、論点が定まっていない」や「WSシチュエーションの変更」を除けば、ほぼ研修とは関係しない記述である。換言すれば、講師レベルの努力によっては解決しない事項である。

【考察】

本稿の目的（設定課題①再教育の評価、②再教育方法の改善策）を達成するために、以下考察を行う。再教育研修に対する評価について、外部評価体制を取り入れていない現状では、受講者と講師によるアンケート分析に限られている。上記のアンケート分析、とくに自由記述部分に対する分析を試みる過程では、当該研修は一定の成果が収められていると考えられる。とくに二の（1）で取り上げた予期せぬ収穫である「各自これからの改善点」において、受講者が習得し今後の診療に生かしたいポイントは、まさに本研修が受講者に伝えようとする内容そのものである。たとえば、医療事故分析のツール、ICの徹底、医師・患者関係ないし医師・医療スタッフ関係の改善などである。（受講者の収穫）

また、受講者より「ワークショップの時間を増やしてほしい」「保険診療の詳しい説明をしてほしい」や「精神的サポートについてもあったら良かったのでは」などの改善を求める記述が多く得られている。これらの記述は、受講者の学習する意欲の現れ、または講師に対する信頼とみてよいであろう。（受講者の姿勢）

そして、団体研修に対する評価には、もっとも特徴的であるのは、「今や誰でも事故は起こりうることであり、医師会主体で研修を年1回ないし2回、絶対参加で行うべき」「一般の医師、歯科医師にも受講して頂きたい位、良い内容だった」である。すなわち、受講者たちが本研修は、事故防止などに役立つと認識し、研修を評価していると思われる。（受講者による本研修の位置づけ）

以上では、受講者の記述によって本研修に対する評価を推測してみた。団体研修の参加者は特殊な背景を持ち、「行政処分」としての指導である以上、個人的に「楽しむ」わけにはいかず、心理的に緊張感があった」と受講者が記述したように、受講者が防御姿勢をとっているがゆえに非協力的な面もあったことは否めない。このような状態をスタート時点とし、2日の研

修を経て上記の評価が得られること自体は、本研修が一定の成果を収めた証拠にもなる⁵。

とはいえ、課題も多く残されている。たとえば、研修の時間配分、人員配分、使用する教材、配布資料、講義・GWの内容ないし進め方などについて、なお調整する余地があると思われる。これらの問題は、これからの団体研修において、受講者と講師との協力関係において徐々に改善する方向に向かわれると思われる。一つの提案をあげるとすれば、たとえば、団体研修の最後に「再教育はどうであるべきか」というGWを設け、受講者と講師との対話を通して研修をデザインしていく方法もあろう。

平成17年により医師再教育研究班が組織され6年を経とうとしている。これまで、講師、関係者らは「医療者の現場復帰を支援する」ことを目標にし、受講者のプライドやプライバシーについて最大級に配慮しつつ、再教育システムを築いてきた。以下の受講者の記述は、講師、関係者らの努力に対する最大な賞賛と認識している。「行政処分を受け、一年近く経ち、悩んでいたが、研修を受けて気持ちが楽になった」。

⁵ 団体研修に対する評価は受講者のアンケート回答に頼って行ったが、しかし主催者によるアンケート調査である以上、受講者が否定的評価を表明することは心理的に難しい点があることも見落としてはならない。

